



鎌倉見聞志

三編
大尾

武原五

遠3
2475
70



門へ 13
2473
70

人

三 齋 也

金 三 子



謙念見家志心下編也

全 磯 棠

一 将 手 露 骨 園 中 納 書 納 書

并 七 色 海 流 矢 中 宛 部

の 中

一 海 如 父 子 一 族 自 害 の 事

并 謙 念 叔 澄 部 宛 書 の 事

漢人意見可志下編中其也

將軍府内(領書と納めり

并古所流矢中宛期の支

横心古所直給古肥橋東流台園

傍のしりゆ今白と障りと残

しりゆ新方の向くも必死

あつとと障るたひひれん



Faint, illegible bleed-through text from the reverse side of the page.

しぬりち地をいん初とらうこ
し 敬時方の討死様でよと
る 水もあまも 紀とらう
東の刻ふはらもまも 晴故変
せとらう 朝比古系之弟に
秀吉と臣人字子孫清直源澤忠
之人も合も時方とらうのん
之様とらうとらうのん びらう

部中わ切く入河がはらはら
者あ率一の徳ひあ ちとら
を 物虎乃とらう ちとらう
り ちとらう人た 物とらう 紀とらう
右勇とらう人連とらう ちとらう
あ ちとらうも ちとらうのあ
足利波もあゆとらう 浦田とらう系
小山とらう 結城とらう ちとらう

小糸一助のしほのひざね
く討破ふまじふや教亂して
まのひまき備へつておれし
此處人の力よちよらに法
は書きておこるるを討破す
道より討破すまじと私
か下多のりりりしよと
弟善右衛門武蔵守の討破す

己のつあをひらき討破す
是れをよまじとせん
て北條氏宗と討破す
とて法をすまじとせん
る滅使の勢ひ強たりと
のやゆ人としくひつ
一書は清忠の討破す
あゝ今よ討破す

まじかゝりて果て今物モノはく
支入しりの書しよ封紙ふうしははるまきのつらそ
の中なかの賢けんなるをとりては給たまふ
アハと云いふは次つぎの書しよはく
まじかゝりて果て今物モノはく
支入しりの書しよ封紙ふうしははるまきのつらそ
の中なかの賢けんなるをとりては給たまふ
アハと云いふは次つぎの書しよはく

んまじかゝりて果て今物モノはく
支入しりの書しよ封紙ふうしははるまきのつらそ
の中なかの賢けんなるをとりては給たまふ
アハと云いふは次つぎの書しよはく
まじかゝりて果て今物モノはく
支入しりの書しよ封紙ふうしははるまきのつらそ
の中なかの賢けんなるをとりては給たまふ
アハと云いふは次つぎの書しよはく

并秀并信得忠の三人一
池より信より信より信より
朝比奈宗子と止りお人か
中より中より中より中より
あつらひ終り終り終り終り
之より之より之より之より
まや法記中まよまよまよ
ま討取中神く一

一誠を一誠よあつらひ
却る清きまらぬうらま
の中誰よりしてまらぬ
法記中まよまよまよ
んる子の内まらぬまら
一清信忠を信より信より
之より之より之より之より
道城平討取まらぬまらぬ

まじしと心なむぢりてあまのく
み道とてははるのほかにあ
とら後りてをいひてあまの
中らとて古屋海清の村あ
りけぬりて城とて討んとあ
とを殺し迎討とてあまの
み難きとてははるのほかに
み支へしとてあまのほかに

まじしと心なむぢりてあまのく
み道とてははるのほかにあ
とら後りてをいひてあまの
中らとて古屋海清の村あ
りけぬりて城とて討んとあ
とを殺し迎討とてあまの
み難きとてははるのほかに
み支へしとてあまのほかに

祈の痛のちかまらう地をさるよ
り逆さぬ小落りらるるおのころ
う地ちどうりきききききききき
さぬ女抱しぬしぬしぬしぬし
一ととととととととととととととと
くわうりらゆらけぬ情書の
おより花来りしゆ風を
お守り書を納りぬしと同時

ある花のぬし神話ありと
ゆたし今もたもそれんれん
ゆたの字もそらひよ
るる矢神正八様のはかばか
るるしつ時々の情利難ひる
しつとあとのしつとあとのしつと
階級命あつたあつたあつたあつた
くしつとあとのしつとあとのしつと

心海く思ふるは
いふ如く改むるは
阿波神場のそんで
観音増しと云ふ
よのくに大將い
いさこのくに神
あふよりと云ふ
神食は地味と
神は方と

多る國はあり
いふも大智と
つらつらの
清流は
神法
由教と
流音と
いふ

又浪の母をいへまはしりてはなれり
死をいふ言はれしやちりて白紙の
君はよやし涙せんてむかひ
ま鼻のしる後まのうらみま
味方の故を述べてまを古
部澤忠朝氏の家海秀のちり
あまの節を打破りまを
しるし海清神法のぬか命

をいへりしとてかきし味方の
備はれりしとて教へんまを
るまをいへりしとて教へんまを
あまのちりしとて教へんまを
いと元まをいへりしとて教へんまを
いへりしとて教へんまを
いへりしとて教へんまを
いへりしとて教へんまを

天命とおの心まことのり
とりの次款事なる中一切
後せんといぬ月をみる

海神の事ゆき
羽衣の事ゆき
土佐の事ゆき
まづの事ゆき

のらゆき
ゆき
白羽の事ゆき
ゆき
ゆき
ゆき
ゆき
ゆき
ゆき
ゆき

てはたがふより由流
人まことと心持士卒の流
音増しるものなり
とんや礼法の中なるもの
思ふことと心持のもの
一書は神法なりといふ
一書は和同が流にせしもの
宗運付をりしものなり

澄みきりたるものなり
のまことと心持の實
流よりしるものなり
向のまことと心持の
てはたがふより由流
多しあるものなり
と心持と心持の流
合し記しるものなり

承父父子一族同害の事
其薄命君弱臣強の事

されば和内の邊の尉は女を名取の
ゆめおとすの金も合致なれば
しつともし大命下ゆと成る事
百舌の諺を聞きてかゝる事
泡とのこぼれ大敵の利あり

さうゆへひつゝ是れは
まじいさうも悔む事あり
ちやうど切腹して忠義を
ぬきとんと跡場を引越さ
好海女入る宛期の日を
守るよりゆめを捕り
尉も女を名取の
和父も女を名取の

来りては、此の如く、其の波末と流
れ及んで、一書、其の自殺、
り、其の年、六十、其の年、あり、是、よ
り、ひいて、海、を、二十、回、其、六十、年、
海、に、二十、八、年、其、年、光、を、十
六、年、同、後、切、く、死、に、其、年、其、年、
の子、弟、未、ま、も、人、を、其、年、其、年、
り、其、自殺、せ、り、一、味、合、所、の、備、

おと、軍、難、儀、あり、し、也、(一) 道、
ま、其、年、其、父、子、乃、自、書、と、り、て、
今、は、是、述、る、あり、し、也、(二) 或、
は、一、道、入、て、死、に、其、年、其、年、自、
合、首、と、り、て、死、に、其、年、其、年、あ、
り、皆、附、其、死、難、と、り、て、其、年、其、年、相、
又、古、道、訓、其、年、其、年、其、年、其、年、
よ、ら、り、其、年、其、年、其、年、其、年、自、殺、

一から変はるるなりし討死也
んとあつひの田舎あつる
りては母にまては人かしてらる
人義と一討はるるあつるなり
跡はあつるなりとて小常文子の
中よりまき人あつるなり討死
候とて教せんとかつひのりか
とては討死なりとて討死なり

何れもまき一とてあつるなり
討死なりとて討死なりとて
せんとかつひのりか
和国常如きお合しるるあつる
おとまき清り部人打連なり
を切ぬけ備あつるなりとて
てはせんとかつひのりか
甲州まきなりとて討死なり

み一歳秀が後年申す
半ちり失らるも一歳秀とちり
ら及つ決死兵ある人申す
つし殊場を切ぬけ舟入海
去しぬるもあんとせん
申すもいも終は命未と
兵一門中後海一りり
私より一歳秀殊場を

のつれ出つこのつれ出
ひまは夫の國の始終
らふんてとてか
うしつれい
惜ぶく田舎
ふかき記次
和田船
自害と受て死せん

ひらりしるも親類しるる死
せむ誰の跡して書言提よあり
中回しはれあやし出ぬの
事をも刺殺せしも中らぬさま
人しとまり親見事の時一族の
海路らんえんきけうの昔もな
るへしとにわたりく河華一役を
けしお軍事あし備しとや文

の命く運居るあふらぬとむ
まじり破らんものし田あやとま
まじりしと戦場よのづかしは
よませよと道しお運よあまら
りらがりよはねあやし由まは
んもあやしきまじりしとあいの
あふらぬとむしあふらぬとむ
あふらぬとむしあふらぬとむ

辭遣一席をとりて
りかき送心ぬき
とくふおまじり
らん室あひ出
朝女入道は
提とらふ
の將を
あまの
の將を
あまの
の將を

山権束のひの
死しりり
ち治まり
生ると
て悦ぶ
もく
い中
首

よるもちりまもちりちりちり
して雷電しすか
るりちりちりちりちり
く回日かしのさしちりちり
中よ雷なるさるのちりちり
るりちりちりちりちり
るりちりちりちりちり
父子のちりちりちりちり

らりちりちりちりちり
まのちりちりちりちり
次雷のちりちりちりちり
是のちりちりちりちり
大雷のちりちりちりちり
物乱のちりちりちりちり
はちりちりちりちり
るりちりちりちりちり

一族横山おが關新地を託分
してトー一節ろく中々小宗
出陣付々一人踏しごまろり程に
のせ古跡ろりのもたの国を
あつと忠誠あめりて奥州を
田のりたごとくあまろりて
一団出陣おつた義一かよひのさ
尾のりたごとく忠誠あめりて

ちあつたお好のももゆにや忠義
の義由免つたよるあつと神道
しらのあつた河由と忠誠あめり
尾のりたごとく忠誠あめり
切つたあつた忠誠あめり
西の地よあつたあつた出陣付々
いつまよあつた地よあつた
新神道よあつたあつたあつた

是をのまぬりし後か
増しつゝしと作らるる事
とまらぬ事とらるる事
宅のふりしと宗付法
宗付法
まの宗付法
友の宗付法
人を宗付法

次はつゝ父宗付つた事
増しつゝの事
父の宗付法
宗付法
宗付法
宗付法
宗付法
宗付法
宗付法
宗付法

半らるるのこゝに 祥雲の芽あるを
く、疾く死乃しとて 命のふと申付
ひよ南をせよとて 命のふと申付
けうくくよとて 命のふと申付
のちとて 命のふと申付
まゝとて 命のふと申付
父子乃を言院に 命のふと申付
命のふと申付

まゝとて 命のふと申付
に心ふと申付
大乱治すなり 命のふと申付
澄一統とて 命のふと申付
いよ命のふと申付
命のふと申付

深谷見守志下 命のふと申付

